2010年

第905号［2012（平成24）年7月］

Ａ４判の冊子型へ。表紙が登場したことで、手に取りたくなるような写真選びが重要に。紙面中の写真も増えました。

2019年

現在［2019（令和元）年］

紙媒体と電子媒体、２つの方法でお届けしています。今後も、新しい便利なお知らせ方法を導入していきます。

広報まいづるがＡ４判の冊子型に変わりました。これまでと決定的に異なるのは「表紙」が生まれたこと。市政やお知らせとは違って季節の行事や市民の皆さんの姿など「地元の素敵な日常」をお届けすることも広報紙の大切な役割と考えています。また、冊子型になったことから、内容ごとに掲載するページを区分けしやすくなり「子育て情報が見たい、イベント情報が見たい、連載を読みたい」など、読みたい情報が探しやすくなりました。

お届け方法も、新聞折り込みに加えて公共施設や郵便局、スーパー、一部コンビニなどに配架をお願いし、多くの市民の皆さんが手に入れやすいように工夫しています。身体の不自由な人など、配架してある所まで行けないという場合は郵送もしています。

◀配架先はこちら

広報まいづるは、紙以外に電子版でも配信しています。ダウンロードし、いつでも読むことができます。

◆市ホームページ　平成24年７月号以降の全号を掲載。

◇PDF…全ページまとめたものと見開き2ページごとに分かれたものを掲載。

◇e-BOOK…スマートフォンなどタッチパネル向けに指でなぞってページをめくったり拡大縮小ができる電子ブック版も掲載。

◆広報紙アプリ「マチイロ」　スマートフォンやタブレットで自治体広報紙が読める便利なアプリ。気になった部分を切り取って保存できるスクラップ機能や登録した複数の市町村の広報紙を購読できるなど便利な機能が搭載されています（右のコードからアクセス可）。

トピック

広報まいづる解体新書

平成24年７月号から続いているＡ４判広報まいづるの工夫を紹介。

◆雑誌の読みやすさを参考に

より多くの人に見てほしい大事なことほど分かりやすさや面白さを意識し、特集しています。一方で、連載やコラムなどは、そのテーマに興味を持っている人向けに掘り下げた内容にしています。

◆新企画

◇広報クイズ…平成28年度から、市の特産品などが当たる広報クイズを実施しています。市内の元気なお店を応援し、また、多くの人に読んでもらいたいという狙いもありますが、それ以上に応募時にお願いしているアンケートを大切にしています。市だけで作るのではなく、読者の皆さんの知りたいことや要望などを取り入れながら紙面を作成しています。

◇まいづるレシピ帖…平成28年度からは地産地消の拡大を目指した料理レシピの連載を開始。調理が簡単で、使う食材や調味料が安価で手に入りやすいなど、実際に作ってもらいやすい料理を掲載するようにしています。日々の献立の一つとして地元の食材を地元で味わってもらいたいという思いで掲載しています。

◇組み写真…夏祭りなどその場の臨場感をお伝えしたい記事では、複数の写真を組み合わせた組み写真で迫力満点の様子をお伝えします。

◇まいづるっ子…平成28年度から、隔月で連載している「子ども版広報まいづる　まいづるっ子」は子ども達が地元をもっと好きになれるよう、まちの歴史や成り立ち、海上保安庁や海上自衛隊など、他市にはない舞鶴の魅力を紹介しています。広報クイズのアンケートでは、意外にも幅広い年齢層に人気があることが分かりました。

◆読みやすいフォント

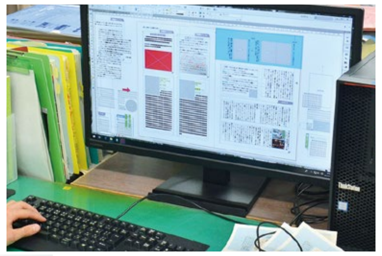
紙面に使用している文字はＵＤ（ユニバーサルデザイン）フォントという読みやすく見間違いの少ないフォントを活用しています。

◀「組み写真」は市町村広報紙のコンクールでも２度京都府下１位に選ばれるなどしています

広報紙の「シゴト」

紙面は職員の手作り

広報紙は平成８年から、課内の専用パソコンで作成しています。文章を送って印刷会社で紙面にしてもらうよりも細部までこだわって作成することができます。編集は３台の編集パソコンで手分けして行っています。また、紙面で使う写真も自分たちで撮影しています。もし腕章をつけた職員が取材をしていたら、撮影にご協力をお願いします。



▲専用のソフトで編集

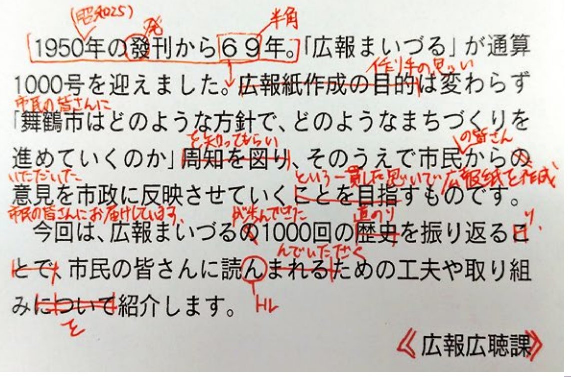
◀この腕章とカメラが目印。取材に協力いただいた希望者には写真データを進呈しています。

広報紙の「シゴト」

広報まいづる校正術

広報紙では「校正」というチェック作業を行い、誤字脱字を防いだり、書き方の統一、分かりやすい表現に言い換えたりと文章にもさまざまな工夫をしています。

◆校正のイメージ　校正は各職員が手書きで行う。また、最後には読み合わせを行い、声に出しておかしな言い回しや文章になっていないかを確認する。



1950年の發刊から６９年。「広報まいづる」が通算1000号を迎えました。広報紙作成の目的は変わらず「舞鶴市はどのような方針で、どのようなまちづくりを進めていくのか」周知を図り、そのうえで市民からの意見を市政に反映させていくことを目指すものです。

今回は、広報まいづるの1000回の歴史を振り返ることで、市民の皆さんに読まれるための工夫や取り組みについて紹介します。

《広報広聴課》

広報まいづる
制作主担当
谷 直樹

広報紙と友達に

私は高校卒業後、市役所に就職した生粋の舞鶴市民です。しかし、広報広聴課に配属されるまで広報紙は隅から隅までは読んでいませんでした。

広報紙では、市政情報やイベントはもちろんのこと、地元で頑張る団体や元気人たち、地元だから見過ごしている舞鶴の良さや魅力も発信しています。ずっと地元にいますが、まだまだ知らない情報もあります。だからといっていきなり「広報紙を読んで、市政を理解して」というのも無茶な話。これは交友関係でいえば、いきなり「友達になって」と言っているようなものです。交友は相手を知り、自分を知ってもらうことで自然と関係が築けていくもの。広報紙も同じで、市民の皆さんがどんな情報を求めているのかを聴き取り、市のことを知ってもらい関係を築いていく。市民の皆さんともっと仲良くなり、友達に友達（広報紙）をおすすめしてもらえるような関係になれたらと思います。

今後も広報まいづるが市民の皆さんに愛してもらえるよう、私自身も新しい発見を楽しみながら、より良い紙面づくりを続けていきます。

京都新聞社
舞鶴支局　記者
石田 真由美 さん

市政を知り 市政を変える広報紙

迫力ある祭りのカラー写真、ごみの新しい分別方法の説明、市内各地で行われる細かなイベントの情報。「広報まいづる」には、毎月たくさんの情報が掲載されています。私たち新聞記者にとっても、すでに記事にした市の事業を再確認したり、土日や休日の取材予定を立てたりするのにかかせない冊子として、大切に読んでいます。

福祉や教育、産業振興など、市が展開するさまざまな事業を、市民が全て把握するのは難しいことですが、市が発行する広報紙には、市の重要な施策はほぼ網羅されています。自分たちの生活にどんな影響があるのか、住んでいる地域が今後どうなるのかを知るだけでなく、市政をチェックするという意味でも、広報紙は有効なツールとなります。

もし手にしたことがない人がいたら、ぜひ一度じっくり読んでみてほしい。そして疑問に思ったこと、読みにくい部分があれば、広報広聴課に伝えてほしいと思います。それが、広報紙をさらに良くすることにつながるだけでなく「市民の声」として市政が変わるきっかけになるかもしれないと思います。